

鶏卵需給等関係資料

平成22年9月10日

農林水産省生産局食肉鶏卵課鶏卵食鳥班

I 鶏卵の需給・価格等の動向

(1) 農業総産出額

平成20年における畜産の総産出額は2兆5,882億円で、養鶏は畜産の約3割に当たる7,444億円。このうち鶏卵は4,501億円。

<表-1 農業総産出額>

(単位：億円)

	60	2	7	12	17	18	19	20
農業	116,295	114,927	104,498	91,295	85,119	83,322	82,585	84,736
畜産	31,686	30,836	25,125	24,577	25,057	24,525	24,787	25,882
養鶏	9,342	8,622	7,011	7,023	6,889	6,583	6,755	7,444
鶏卵	5,099	4,778	4,096	4,247	4,346	4,010	4,019	4,501
養鶏/畜産	0.29	0.28	0.28	0.29	0.27	0.27	0.27	0.29

資料：農林水産省「農業総産出額及び生産農業所得」

注：20年の数値は概算値。

(2) 需給概要

- ① 鶏卵需要は、食生活の高度化・多様化に対応して戦後一貫して増加していたが、平成3年度以降は概ね横ばいで推移。
- ② 国内の供給量は概ね需要を満たす水準で推移。

<表-2 鶏卵需給の推移>

(単位：千トン)

	60	2	7	12	17	18	19	20	21
需要量	2,198	2,470	2,659	2,656	2,631	2,630	2,702	2,646	2,605
生産量	2,160	2,420	2,549	2,535	2,481	2,509	2,589	2,535	2,505
輸入量	39	50	110	121	151	122	113	112	101

資料：農林水産省「食料需給表」、財務省「日本貿易統計」

注：4年1月より輸入の殻付き卵換算係数を変更。

(3) 消費動向

- ① 家計消費は、近年概ね横ばい推移。
- ② 業務・加工用は7年度以降概ね横ばいで推移してきたが、21年度はやや低下。
- ③ 21年度における消費形態は、家計消費52%、業務・加工用48%。
- ④ 一人当たり消費量は世界でも最高の水準。

<表-3 一人1日当たり鶏卵消費量>

(単位：g/日・人、%)

	60	2	7	12	17	18	19	20	21
家計消費量 ①	30.7	29.7	29.3	28.5	27.0	27.3	27.6	27.3	27.7
業務・加工用	16.2	22.2	25.8	26.2	26.5	26.1	27.4	26.8	25.6
総消費量 ②	46.9	51.9	55.1	54.7	53.5	53.4	55.0	54.1	53.3
①/②×100	65.5	57.2	53.2	52.1	50.5	51.1	50.2	50.5	52.0

資料：総務省「家計調査」、農林水産省「食料需給表」

注1：11年度以降の業務・加工用の数値は生産局推計。

注2：21年度は速報値。

<表-4 国別消費量の推移>

(単位：個/人・年)

国名	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2006	2007	2008
カナダ	227	205	191	172	188	187	187	174	181
アメリカ	273	256	235	235	256	255	256	250	248
ドイツ	285	280	253	224	223	206	209	210	212
フランス	250	266	263	264	253	251	251	245	248
イタリア	191	200	217	219	218	218	219	224	224
オランダ	191	200	176	173	180	183	182	182	182
イギリス	235	212	169	169	173	172	173	178	183
スウェーデン	213	214	210	205	197	200	198	197	197
メキシコ	-	-	-	-	-	349	351	345	345
中国	-	-	-	-	-	-	340	349	333
日本	270	280	310	339	328	-	324	324	334
オーストラリア	214	183	148	152	156	165	155	166	196
ニュージーランド	-	-	192	202	207	222	216	218	225

資料：International Egg Commission 「International Egg Market Review」

(4) 供給動向

① 生産量は、需要が安定的に推移していることを受け、近年概ね横ばいで推移。20年度は前年度比2.1%の減少、21年度は1.2%減少した。

② 輸入量は、国内の鶏卵需要や価格の動向、為替レート等の影響を受けながら変動しているが、全需要量の5%程度で推移。

主な輸入相手国は、オランダ、アメリカ、メキシコ等

<表-5 鶏卵生産量>

(単位：千トン、%)

	60	2	7	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
生産量	2,160	2,420	2,549	2,535	2,519	2,529	2,530	2,481	2,481	2,509	2,589	2,535	2,505
前年度比	100.7	99.9	99.4	99.8	99.4	100.4	100.0	98.0	100.0	101.1	103.2	97.9	98.8
年度平均伸び率	56~60	61~2	3~7	8~12	9~13	10~14	11~15	12~16	13~17	14~18	15~19	16~20	17~21
	1.6	2.3	0.2	-0.1	-0.4	-0.4	-0.1	-0.5	-0.4	-0.2	0.6	0.5	0.2

資料：農林水産省「食料需給表」

<表-6 鶏卵等輸入量(殻付き換算)>

(単位：千トン、%)

	60	2	7	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22(4-7)
輸入量	38.6	50.0	103.9	120.7	114.5	119.6	110.5	134.3	151.0	121.5	113.3	112.2	100.8	40.6
前年度比	132.2	111.6	105.4	101.4	94.8	104.5	92.4	121.6	112.4	80.5	93.2	99.0	89.9	112.0
輸入量(殻付き卵)	0.4	1.7	2.0	2.1	1.2	2.6	1.3	3.8	14.0	3.6	1.9	2.3	0.7	0.3

資料：財務省「日本貿易統計」

注：殻付き換算 3年度まで 卵黄粉3倍、全卵粉4倍、液卵1.2倍、卵白1.275倍
4年度以降 卵黄粉2.2倍、卵黄液1倍、全卵粉4.4倍、全卵液1.1倍、卵白粉8.6倍、卵白液1.2倍

<表-7 国別輸入量>

(単位：トン)

	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22(4-7)
オランダ	16,861	17,140	24,558	27,572	26,547	22,940	24,520	27,166	23,407	8,935
アメリカ	26,934	28,171	16,591	22,056	46,202	29,657	18,277	19,517	19,274	8,624
イタリア	4,880	3,706	3,446	9,047	7,681	12,767	16,465	21,405	14,337	4,300
インド	7,496	10,243	9,340	12,687	9,530	10,186	13,279	10,905	8,356	3,276
カナダ	16,096	16,580	14,993	7,849	13,382	10,676	4,477	3,391	8,630	2,701
ブラジル	3,933	7,100	8,111	13,324	14,399	6,869	6,086	4,648	5,978	2,059
メキシコ	5,499	5,189	5,658	5,227	3,953	3,055	4,264	4,204	6,385	4,577
その他	32,786	31,488	27,786	36,579	29,267	25,355	25,913	20,962	14,446	6,114
計	114,485	119,617	110,483	134,341	150,961	121,506	113,281	112,198	100,815	40,587

資料：財務省「日本貿易統計」

注：殻付き換算は、卵黄粉2.2倍、卵黄液1倍、全卵粉4.4倍、全卵液1.1倍、卵白粉8.6倍、卵白液1.2倍

(5) 経営状況

- ① 採卵鶏の飼養羽数は、小規模層を中心に毎年減少しており、21年2月1日現在の飼養戸数は3,110戸と前年比5.8%減少。
- ② 成鶏めす飼養羽数は、11年以降減少傾向で推移していたが、19年は増加に転じ前年比4.3%増となったものの、21年は前年比1.8%減の139.9百万羽。
- ③ 一戸当たりの飼養羽数は一貫して増加しており21年は前年比3.5%増の44,700羽。
- ④ 21年における成鶏めす羽数規模5万羽以上層の飼養戸数は627戸（全体シェアの22.2%）、飼養羽数は110百万羽（全体シェアの79.2%）。

<表-8 採卵鶏の飼養動向>

		60	2	7	11	12	18	19	20	21
採卵鶏飼養戸数	千戸	123.1	86.5	7.3	5.4	4.9	3.6	3.5	3.3	3.1
成鶏めす飼養羽数	百万羽	127.6	137.0	146.6	143.1	140.4	136.9	142.8	142.5	139.9
一戸当たり飼養羽数	千羽	1.6	1.9	20.1	28.3	28.7	37.9	41.3	43.2	44.7

資料：農林水産省「畜産統計」、「家畜の飼養動向」（各年2月1日現在）

注：種鶏のみ飼養羽数を除く。3～9年は成鶏めす羽数300羽未満、10年以降は成鶏めす羽数1,000羽未満の飼養者を除く。

<表-9 成鶏めす飼養羽数規模別シェア>

(単位：%)

		60	元	6	10	11	18	19	20	21
300～ 999羽	戸数	15.7	14.2	11.8	-	-	-	-	-	-
	羽数	1.1	0.7	0.3	-	-	-	-	-	-
1,000～ 4,999羽	戸数	45.1	37.2	29.5	30.0	29.8	27.1	26.1	25.8	25.4
	羽数	13.1	7.8	3.5	2.5	2.3	1.6	1.5	1.3	1.2
5,000～ 9,999羽	戸数	19.6	19.8	18.0	18.3	18.2	16.1	15.9	16.1	16.5
	羽数	16.1	11.4	6.0	4.3	4.2	2.7	2.5	2.3	2.3
10,000～ 49,999羽	戸数	17.1	24.4	30.9	37.1	37.0	36.7	37.0	36.5	36.0
	羽数	39.7	38.9	31.6	28.1	27.3	20.0	19.3	17.9	17.3
50,000～ 99,999羽	戸数	2.5	4.5	5.5	7.4	7.5	9.4	9.5	9.6	9.8
	羽数	30.0	41.3	18.4	17.3	16.6	15.5	14.8	14.1	14.0
100,000羽～	戸数	-	-	4.3	7.1	7.5	10.7	11.5	11.9	12.4
	羽数	-	-	40.2	47.8	49.6	60.2	62.0	64.3	65.2

資料：農林水産省「畜産統計」（各年2月1日現在）

注：56～元年は、50,000～99,999羽以上層に100,000羽以上層を含む。

(6) 価格動向

- ① 鶏卵に対する需要は概ね横ばいで推移しており、かつ、約96%を国内で自給しているため、主な価格変動要因は、国内生産量の増減（わずかな生産量の変動が大幅な価格変動につながる）。
- ② 鶏卵価格は、毎年の季節的な需給バランスによる変動（季節変動）と、5～6年を周期とする変動（エッグサイクル）が存在。
- ③ 卸売価格は、19年度は、生産量が増加したことから価格が低迷したが、20年度は、生産量が前年を下回ったこと等から堅調に推移した。21年度は、厳しい経済情勢の中で業務・加工用需要の低下により前年度を下回る水準で推移したが、22年度（4-7月）は前年度を上回る水準で推移している。
- ④ 我が国における鶏卵の小売価格は、国際的に見ると低い水準。

<表-10 鶏卵価格の推移>

(単位：円/kg、%)

	60	2	7	12	17	18	19	20	21	22(4-7)
農家販売価格	267	224	173	171	176	174	164	188	168	173
(前年度比)	115.8	124.2	114.7	93	92.8	99	94.1	114.7	89.2	108.8
卸売価格	279	241	197	185	186	184	167	193	175	179
(前年度比)	115.8	120.5	116.6	92.5	90.7	98.9	90.8	115.6	90.7	109.1
小売価格	350	344	296	310	221	216	210	227	216	215
(前年度比)	150.4	119.4	106.9	98.4	100.9	97.7	97.2	108.1	95.2	101.4

資料：農林水産省「農業物価統計」、全農たまご東京M相場、総務省「小売物価統計」

注1：小売価格は、14年7月よりMサイズ1kgからLサイズ10個に変更

(7) 配合飼料の生産動向

- ① 育すう用飼料の生産量は、12年度以降、750千トン程度で推移。20年度は対前年度比2.9%の減少。21年度は対前年比0.8%の増加。22年度（4～5月）は対前年同期比1.6%の減少となっている。
- ② 成鶏用飼料の生産量は、16年度以降600万トンを下回る水準で推移。20年度は対前年度比2.9%の減少。21年度は対前年度比0.4%の減少。22年度（4～5月）は対前年同期比0.4%の増加となっている。

<表-11 配合飼料生産量の推移>

(単位：千トン、%)

	60	2	7	12	17	18	19	20	21	22(4-5)
育すう用飼料	980	882	829	763	751	758	749	727	734	126
対前年度伸び率	-1.8	-4.2	-0.6	-0.3	5.0	1.0	-1.1	-2.9	0.8	-1.6
成鶏用飼料	5,977	6,175	6,244	6,053	5,743	5,764	5,823	5,657	5,636	960
対前年度伸び率	0.2	-1.3	0.3	-0.4	0.0	0.4	1.0	-2.9	-0.4	0.4
鶏卵生産量	2,160	2,420	2,549	2,535	2,481	2,509	2,589	2,535	2,505	
対前年度伸び率	0.7	-0.1	-0.6	-0.2	0.0	1.1	3.2	-2.1	-1.2	

資料：農林水産省「食料需給表」、(社)配合飼料供給安定機構「流通飼料価格等実態調査」

(8) 配合飼料の価格動向

① 成鶏用配合飼料価格は、13年度以降、国際相場・円安の影響等から上昇傾向で推移。18年秋以降、とうもろこしのシカゴ相場が燃料用エタノール生産向け需要の増加等により上昇したことから、20年度は対前年度比17.0%上昇。21年度は、対前年度比14.0%の低下。22年度（4～5月）は、対前年同期比0.9%の低下となっている。

② 配合飼料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和するため、民間の自主的な積立による通常補てんと、通常補てんでは対処し得ない異常な価格高騰に対応するために国の支援による異常補てん制度を措置。

(18年10～12月期から20年10～12期の9期連続して発動)

<表-12 配合飼料価格の推移>

(単位：円/トン、%)

	60	2	7	12	17	18	19	20	21	22(4-5)
育すう用飼料	51,738	38,290	31,501	31,390	37,879	40,965	49,989	56,749	47,951	47,221
対前年度伸び率	-11.9	-3.8	1.5	-0.7	-1.1	8.1	22.0	13.5	-15.5	1.5
成鶏用飼料	53,883	40,835	33,907	34,137	42,400	45,399	54,691	62,124	53,407	52,370
対前年度伸び率	-12.7	-3.8	0.4	-0.6	-1.1	7.1	20.5	13.6	-14.0	0.9

資料：(社) 配合飼料供給安定機構「流通飼料価格等実態調査」

注：バラ、工場渡しの価格